

精神看護援助論

必修

開講年次：2 年次後期

科目区分：演習

単 位：1 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：精神障害のある対象の生活を理解するとともに、健康障害の病態と治療などを学び、精神の健康上の問題に直面している対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。また、社会生活の上で生じるさまざまな心の健康障害を持つ人の理解を深め、ライフサイクル各期の精神保健について学ぶ。

■**到達目標**：①精神障害者の病態像および生活への理解を深め、その治療法と基本的看護援助方法を習得する
②社会生活およびライフサイクル各期での精神保健について説明できる

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎伊東 健太郎・守村 洋・武村 史・松原 良治

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション
精神障害者の理解と精神看護技術の考え方
- 第2-4回 精神障害の病態と治療など
(統合失調症、気分障害、神経症)
- 第 5 回 精神医療と看護の歴史の変遷／精神医療をめぐる法律
- 第6-11回 精神障害を抱える対象者への看護
(統合失調症、気分障害、神経症、アディクション、認知症)
- 第12回 精神医療における精神看護の実践／権利擁護
- 第13回 当事者による地域精神保健福祉活動
- 第14-15回 精神障害リハビリテーション ～病院から地域へ～
- ※オムニバス形式のため、順序および内容の変更もありえる

■**教科書**：『看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術』／山本勝則ら編（メヂカルフレンド社）

■**参考文献**：『精神看護学Ⅰ-精神保健学』／吉松和哉ほか編（ヌーヴェルヒロカワ）
『精神看護学Ⅱ-精神臨床看護学』／川野雅資編（ヌーヴェルヒロカワ）
他、講義の中で紹介する

■**成績評価基準と方法**：出席参加度（10%）、レポートおよび単位認定試験（90%）により総合的に評価する。なお、2/3以上の出席を満たさなければ評価の対象としない。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②		
レポート 単位認定試験	◎	◎		90
授業態度	○	○	積極的な姿勢。	10
出席	○	○	2/3以上の出席	

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：当事者をゲストスピーカーとして招き、精神障害を抱えながら地域で生活することを語ってもらう。受講生には積極的に講義・演習に臨むことを期待している。